

振興会だより

よしだ

2017年(平成29年)
12月20日発行
第41号
吉田地区振興会

敬老の日 おめでとうございます



9月10日(日)午前10時から市民文化センターで吉田地区敬老会を開催しました。

今年を対象者(75歳以上)632名の内257名が参加され、楽しい一日となりました。

開会行事は、ご来賓として市長(代理)をはじめ8名の方々のご臨席を頂き、市長(代理)・市議会議員・社会福祉協議会会長の3名の方からご祝辞を頂きました。そして、出席者のうち最高齢の柳原の村崎幸造さん(96歳)が敬老者を代表して記念品と花束を水重会長から受け取られ、内堀の春日信次さん(75歳)が代表してお礼のご挨拶をされました。

その後のアトラクションでは、吉田小学校4年・吉田保育所・吉田幼稚園の児童たちをはじめ156名の方々がステージに立たれ、日頃の成果をご披露されました。が、その中には沢山の敬老者の方がおられ、まだまだ皆さん元気いっぱいでした。最後はみんなで長生き音頭を

歌い、子ども神楽で締めくくりました。今年も、楽しい想い出の一日になったようです。有難うございました。

最後になりましたが、敬老会をお世話いただいた実行委員の皆様、ステージ発表された皆様、ご協力誠に有難うございました。心からお礼を申し上げます。



心のもったお弁当を

担当 環境福祉部

12月2日(土)今日は恒例の友愛訪問の日です。朝早くから吉田運動公園の調理室に30人が集合し、お弁当作りをしました。80歳から84歳までの方は一人暮らし、85歳以上の方は全員にそれぞれ地域の委員さんが声を

お知らせ

すみよいまちづくりについて、市長を囲んで懇談会を開催します。お誘い合わせのうえ、お気軽にお越しください。
◎とき 平成30年二月十日(土)午後一時三〇分から
◎ところ 安芸高田市市民文化センター四階 小ホール



掛け合いながらお配りしました。

『お元気で、新しい年をお迎えください。』との気持ちを含めて。



気象予報士から学ぶ

防災学習会

8月26日(土)午前10時から、安芸高田市民文化センターでNHK広島放送局の気象予報士・杉山真理さんをお迎えし、天気予報と災害についての講演会を開催しました。

普段、私たちはテレビやラジオの天気予報では「今日は雨じゃげな」「明日は晴れるの〜」「大きな台風が来よるで」などの情報を得ることくらいですが、今回の研修では「台風のコースは」「積乱雲とは」など天気の仕組みと災害の発生などについて一歩突っ込んだお話を聞くことができました。

また、同席された広島県消防保安課の澤木一馬主事からも**広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動**の取り組みについてお話を聞きました。

杉山真理さんのお話のポイントを次のページにまとめました。今後、天気予報を見られる時の参考にされ、みんなで災害に遭わないようにしましょう。

消防保安課の澤木一馬主事



台風の進路について説明を受ける参加者の皆さん

講師の気象予報士杉山真理さん



防災講演会に参加して

四丁目 吉川 勇

私は地域の自主防災会の世話をしてもらっており、今回の防災講演会の開催を知り参加した。

最初に杉山真理さんが気象予報士になられた経緯や仕事の内容などを話されたが、テレビで拝見するよりは実に素敵な女性とお見受けした。

さて、講演の内容については、まず天気図の見方からで、最近各地で発生する豪雨災害についての知識を得ることができた。

危険余地のヒントは大気の状態が不安定か否か。地上と上空の温度差が40度以上になると雷が発生したり、雹(ひょう)が降ったりする。また、その要因となる積乱雲に注意を要することだ。この積乱雲が同じ場所ですと発生し豪雨をもたらすのが「線状降水帯」で平成25年8月から運用開始された「特別警報」につながる。広島市土砂災害や今年の島根石見地方の豪雨等で「大雨特別警報」が発

令されている。

『数十年に一度のこれまで経験したことがないような異常事態』とのことだが、最近では数十年に一度が何度も何度も発生し、まさに異常気象である。

そのほか、危険を予知するため気象レーダーによる雲の動き・気象庁ホームページの土砂災害警戒判定メッシュ情報、また危険度分布などを活用して気象の変化を予知すること。

また、台風の進路についても理解を深めることができた。進路図に白の点線の円があるが、ともすればこの円の中心が台風が通過するものかと思いがちだが、本当は台風の中心が到達すると予想される範囲を示す円で『予報円』と云うことだ。

9月に入って非常に強い大型の台風18号が発生したが、早速、講演会で得た知識が役立つ。気象庁のホームページを開き、今後どうなるかを自分なりに推測してみた。

お陰で、これまで以上に親しみをもって天気予報を見ている昨今である。

気象予報士 杉山真理さんの 講話のポイント

【線状降水帯】

一つの積乱雲は、長くても1時間程度で消えてしまう。このため、夏の夕立などはザーッと降っても止むことが多い。

一方で、線状降水帯とは、積乱雲の列のこと。積乱雲が次々に発生し連なると、同じような所で大雨が続くことになる。そのようなようにして発生したのが、広島市の緑井・八木・可部をはじめとする土砂災害で、「平成26年8月豪雨」と命名された。

線状降水帯を予測することができて、その位置まで予想することは難しい。位置がずれていたら、安芸高田市でも大きな災害が起きていたかもしれない。

【土砂災害の危険箇所】

広島県内には、土砂災害が起こるおそれのある危険な場所が約49,000ヶ所も有るとされ、全国でダントツに多い。これまで、たまたま災害が起こらなかっただけで、危険は身近に潜んでいる。

【土砂災害の前ぶれ】

土砂災害の前ぶれと言われる現象は、一般的には、①川の水が急に濁ってきた、②小石がパラパラと落ちてきた、③いつもと違う匂いがしてきた、などと言われている。ただ、これらを感じたときには、すでに土砂災害が起こっているかもしれない。気象庁のホームページにある「気象レーダー」や「土砂災害警戒判定メッシュ情報」などを活用して、早めの情報収集を心がけよう。

【地名から過去の災害を知る】

気象災害は地形などで起こりやすい場所があるため、その災害が地名に残されていることがある。地名を調べ、どこで、どのような災害が起こりやすいのかを知っておくことも、身を守る上で役に立つかもしれない。

【マークだけでは伝えられないこと】

天気予報のマークは「晴れ時々くもり」なのに、雨に濡れた経験はないだろうか。マークは1つ又は2つでしか表せないため、天気予報文には

「晴れ時々くもり」ところにより雨【で雷を伴う】という言葉が隠れていることがある。降水確率30%程度では雨マークが付かないため、天気予報の言葉にも耳を傾けてほしい。

【降水確率】

降水確率とは「ある地点で1ミリ以上の雨が降る確率」。つまり、0.5ミリ程度の雨は考慮されていない。四捨五入して10%ごとに表される。

「0%でも雨が降る？」右記に従うと、0%とは5%未満のこと。つまり1〜4%の確率で雨が降ることもありえる。また、霧雨など1ミリに満たない雨が降ることもある。

重要なのは、降水確率が低いから雨が弱いわけではないということ。シトシトと降る長雨が100%とか、逆に30%程度で大雨になることもある。降水確率は、雨の強さや量に関係ないため注意が必要だ。

【大気の状態が不安定】

天気予報から災害を見抜く一番のポイント。大気の状態が不安定になり積乱雲が発達する

と、落雷や竜巻などの激しい突風、ヒョウなどが降ることもある。天気予報で「大気の状態が不安定」という言葉を聞いたら、天気急変に注意してほしい。その前ぶれとして、①空が暗くなる、②雷の音が聞こえる、③冷たい風が吹く、④大粒の雨が降ってくるなどがある。ゴロゴロと音が聞こえたら、雷雲が10kmくらいまで近づいているサイン。速やかに頑丈な建物の中に避難しよう。

【台風】

日本の台風シーズンは、夏〜秋にかけて。近年は、複雑な動きをするものも増えてきている。そこで、私たちが目安としているのは予報円だ。ただ、予報円が大きいときは「どこに進むかわからない」というしるし。予報円の中心を進むわけではない。ということに注意してほしい。また、台風と前線の組み合わせは豪雨をもたらすことも多い。広島県の土砂災害や、福岡県朝倉市に大きな被害をもたらした「平成29年7月九州北部豪雨」の原因でもある。

まちづくりリーダー研修の実施

11月5日(日)に三原市へ各地区の行政区委員を対象に研修を実施しました。今年は、毛利元就の子、小早川隆景が築城した三原城の築城450年記念の年で、春から11月まで通して色々な記念イベントが開催されましたが、その中で、「第14回三原浮城まつり」を吉田の郡山桜まつりや一心祭りなどの参考にすることを目的に見学しました。



祭りの会場内には「毛利」の字と「一に三つ星」の家紋のいたる所で見られ、三原市との親近感を強く感じました。

また、地元吉田町から約20名の方が毛利隆元隊として甲冑姿で

三原城へ集結し氣勢を上げ、祭りに一役かっておられました。

ボランティア・ロードの整備

担当 福祉保健部

急に寒さが襲ってきた11月20日(月)にJA本所前のボランティア・ロードの整備を行いました。

午前中は近所のお店の方の飛び入り参加もあり16名で花畑の整備・生垣の刈り込み・片側の花畑へのパンジーの植えつけなどの作業をしました。



午後からは吉田高校アグリビジネス科の生徒さん10名と先生3名も参加されパンジーを植えました。

来春には、可愛らしい花が咲きますので見守ってやってください。

第22回吉田地区グラウンドゴルフ大会

担当 体育部

9月24日(日)大浜運動公園に於いて12チームの参加により開催しました。成績は次のとおりです。

団体の部

第1位	郡山C	第2位	高樋
第3位	郡山B	第4位	五丁目
第5位	西土手A	第6位	四丁目
第7位	西土手B	第8位	郡山A

個人の部

男

女

第一位	河野隆三	仁井幸世子
第二位	大中康治	杉浦信子
第三位	森末信好	山本始信

この結果の上位3チームが第20回吉田町グラウンドゴルフチャンピオン大会(平成30年3月11日(日)於土師ダムグラウンド)に出場します。

ご健闘をお祈りします。

編集後記

近年は天気予報がよく当たる。昔は、運動会の時など雨マークが出る、「天気予報よ、頼むからハズレてくれ」と、お願いしたら天気予報がハズレ晴れたことが有った。当然、逆も有った。

8月に、気象予報士をお招きし、講演会を開催した。気象予報士は、気象庁からのデータなどを分析して天気を予想されること。そこで、予報は雨でも雨が降るとは限らず、逆に予報は晴れでも雨が降ることが有るそう。『なぜかは、3ペーシを読んでください。』

考えてみれば、私達も昔から天気を予想している。『芸備線を列車が走る音が聞こえると雨が降る。』『丹比の方向が夕焼けならば明日は晴れる。』『カメムシが多ければ雪が多く降る。』など。ある程度、年季の入った方なら心当りは、有りませんか。さて、今年最後の広報となりました。今年も読んで頂き有難うございました。来年も引き続き宜しくお願いします。

今田 基良